

同窓会会報

令 5.1.17



「販売実習で買物」



同窓会長 阿部 朗

一月二十五日、一迫の《あやめの里》に於いて販売実習「きてけさいん」が出店し、チラシを見て私も買物に立ち寄りました。長蛇の列もできたと聞き、早めの時間に完売との事でした。「かに味噌」・「花畑牧場キャラメル」・「いかめし」等を購入しました。栗原版デュアルシステムでの販売実習は、生徒自らが地元企業の協力により仕入・販売・会計処理まで行うものです。今回はフィールドワークによるアンケートを基に「北海道フェア」を開催・販売でした。感心したのは、ノートパソコン・簡易プリンター・ソーラー電源の会計システム、後の会計処理のことを考えての事ですね。実践的な学びが、後に生かされる事と見受けられました。

デュアルシステムの三本柱は「企業実習」と「販売実習」と「起業家研究」。起業家研究には、私も平成二〇年から三年ほど関わりました。このシステムは文部科学省の『日本版デュアルシステム』として平成一七年度に指定を受け始まり後に栗原版デュアルシステム

として継続されています。現在も販売されている「こめていら」は、(有)もちっ小屋でんが開発協力・販売している開発商品です。私に関わり掲げた開発テーマは「栗原の食材を多くの方に知ってほしい」と言っ事、「弁当を開発して販売し、栗原の知名度・魅力をお弁当を通じて知ってほしい」と「栗原ふれあい弁当」と命名しました。その年は「岩手・宮城内陸地震」の発生で甚大な被害があり中断もしましたが生徒の強い希望で被災地域の食材を多く使い再開する事、《うつくしい田、うつくしい川瀬》のある場所から生まれ、栗原の食材とふれあう・お客様とふれあう事で開発コンセプトと致しました。また、これまでの取り組みに対し平成二十一年《富県宮城グランプリ特別賞》の受賞も致しました。

「半世紀の重みを胸に」



校長 山崎 健一

同窓生の皆様には、日頃より母校の教育活動に格別のご理解とご支援をいただき心より感謝申し上げます。

本校は今年度「創立五〇周年」の節目を迎え、令和五年一月九日には「記念式典」を開

催いたします。令和二年度に準備委員会が発足し、昨年五月には阿部朗同窓会長を委員長とする実行委員会を立ち上げ、準備業務を着々と進めております。多くの同窓生の方々とともに、「本校の半世紀」をお祝いしたいと思います。

現在、本校では百余名の生徒が在籍し、小規模校ならではの特長を生かしたきめの細かい指導が実践され、生徒は商業の学びを中心とした毎日を送るとともに、資格取得に向けた日々の努力を続けています。この姿は、同窓生の皆様が経験された時代から、脈々と続いている本校の良き伝統であり、今後ともないでいくべきものと考えます。

校外に目を向けると、本校の看板にもなっている『デュアルシステム』の実践をとおし、本校が地域とつながり、地域から愛されている高校だということを強く実感できます。創立から半世紀が経過しますが、今あらためて、同窓生の方々のこれまでの様々なご努力に敬意を表します。

ここで学校のトピックスを少々。四月にバドミントン部・eスポーツ部・トレーニング部を新設。商業研究部・ワープロ部が東北大会に出場。第五一期生徒会長に菅原龍二くん(築館中)が就任。三年振りに関西方面への修学旅行を実施。年末には三年生全員の進路が内定と、コロナ禍でも頑張っています。

結びに、本校はこれからも同窓生の皆様にとっての「自慢の母校」であり続けられるよう努力してまいりますので、今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

在校生の活躍

「東北大会に出場して」



三年一組 佐々木ひかり

私たち商業研究部は、今年度は「確立していく地域のCYCLE」をテーマに研究を行いました。栗原の未来」をテーマに研究を行いました。八月二七日に岩手県奥州市で行われた東北大会では、発表をする三年生だけではなく、一・二年生にサポートをしてもらいながら大会に臨みました。一日目は、リハーサルを行い、会場の雰囲気を感じる事ができました。リハーサルが終わると全員で神社に行き、願掛けとしてお参りしました。とても、充実した一日を過ごせたと思います。二日目の大会当日、午後にある自分たちの発表の順番を、とても緊張しながら待っていました。ですが自分たちの順番になるといつも以上の発表をすることができ、優良賞(第七位)をいただくことができました。昨年の順位よりは、下がってしまいましたが、悔いが残らない最後の発表ができました。

私たちは、三年間ふさずぐりの研究に取り組んできました。お世話になった地域の方をはじめ、研究に協力していただいた全ての皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



「最後の新人戦」



二年二組 佐藤 晃斗

私たちフープ部は、一〇月八日に行われた「商業実務総合競技大会フープ競技の部」において団体三位という結果を残しました。私にとって二回目の新人戦とも言える今回の競技大会でしたが、自分の中で一〇〇文字以上打つと目標を立てて本番に挑みました。本番は緊張しましたが、隣でチームメイト達と共に出場したので、徐々に安心して打つことが出来ました。結果として、目標としていた一〇〇文字以上を達成した上、誤字を一文字も出さずに正確賞を受賞することができました。正確賞は校内で何年ぶりか分からな

いほど久々の受賞になります。チームに貢献できただけでなく、個人としても一迫商業に名を残すことが出来たことで、自分の自信に繋がりました。

また、競技大会の二週間後に行われた東北大会に私を含む三人の生徒が出場しました。初めての東北大会では、他県の生徒との交流など、普段は味わえない体験をすることができました。結果はあと一步目標に及ばず、足を引っ張る形となってしまいました。それでも県の代表として参加できたことは貴重な経験ですので、今回の東北大会出場を誇りに思い、最後の大会へ向け精進していこうと思います。

事務局より



令和四年七月三〇日(土)、本校視聴覚室で同窓会総会を開催し、会計報告や予算案の承認などについて協議しました。残念ながら、懇親会は中止の判断をさせていただきます。いただきましたが、来年度こそは、通常開催で参加者も増えてほしいと思います。同窓会役員の皆さまには、チラシ案内などのご協力をいただき、ありがとうございます。令和五年度も、どうぞよろしく願います。

